

令和2(2020)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
		評価指標	取組項目(○)と内容(・)				
2 入学生の確保	<p>(現状)</p> <p>○近年の本科入学生はH30が61名、H31が59名、R2が70名と定員80名を下回っている。</p> <p>○R2の受験者も定員を下回る72名であった。</p> <p>○オープンキャンパスを年に3回実施しているが、参加生徒数は伸び悩んでおり、またR2は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止により、6月のオープンキャンパスは中止となった。</p> <p>○農業関係以外の普通科系高校へ訪問したり、HPに年間100回を超える記事を公開するとともに、農大農産物の販売や各種イベントの会場として活用することにより、農大のPRを行っている。</p> <p>(課題)</p> <p>●高校生や農業者等に対して、農大の存在や特徴を認知してもらう必要がある。</p> <p>●就農を目指す応募者の増加を図る必要がある。</p> <p>●本県農業の特徴や目指す方向である、いちごや露地野菜をコース名等として表出するなど、対外的にわかりやすいコース設定を検討する必要がある。</p> <p>●創設される「いちご学科」について、JA等との連携、積極的な広報活動等により、学生の確保を図る必要がある。</p>	<p>全体応募者</p> <p>80名以上</p> <p>農業生産学部入学者</p> <p>70名以上</p> <p>農業経営学部(いちご学科)入学者</p> <p>10名以上</p> <p>オープンキャンパス全体参加者数</p> <p>160名以上</p>	<p>(1)オープンキャンパス等による農大の理解促進</p> <p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・新型コロナ対策により、予定した行事が中止となったため、規模・内容を変更して改めて実施する。</p> <p>・農大ホームページを改善して、インパクトのある分かりやすい情報発信を行う。</p> <p>・2年生を対象としたオープンキャンパスを実施する。(今年度は新型コロナ対策で実施は難しい)</p> <p>○オープンキャンパスの魅力向上</p> <p>・一般の高校生(農業高校以外)を対象に、実習体験をメインに行う。</p> <p>・学生課・教務部が連携して、参加者に受け入れやすいプログラムを作成する。</p>	<p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・7月18日(土)に第1回で農業高校生を、8月1日(土)に第2回で一般高校生を対象に規模縮小・時間短縮で開催した。(参加生徒数7/18は50名、8/1は33名)</p> <p>また、9月6日(日)にオンライン、10月4日(日)に現地見学によるいちご学科のオープンキャンパスを開催した。(参加者数9/16は26名、10/4は17名)</p> <p>・いずれもコロナ対策で会場の換気・間隔を十分取り、全員の体温・健康チェックを行うなど万全を期し、トラブルもなく行えた。</p> <p>・8/25農大ホームページに、8月より新たにYouTubeによる学校紹介の動画配信を開始した。</p> <p>・オープンキャンパスの開催状況もアップした。</p> <p>・10月2日(金)に宇都宮白楊高校1年生(41名)の学校見学を受け入れて、校内主要箇所の説明を行った。</p> <p>○オープンキャンパスの魅力向上</p> <p>・前年度にリクエストの多かった「実習体験」は、コロナ対策の関係で中止せざるを得なかった。(第2回で専攻別体験実施)</p>	<p>A (80名/80名=100%)</p> <p>B (58名/70名=82.9%)</p> <p>A (9名/10名=90.0%)</p> <p>B (126名/160名=78.8%)</p>	<p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・引き続きコロナ対策が必要と考えられるため、オンラインの活用等による効果的な相談を実施する。</p> <p>・2年生を対象としたオープンキャンパスを今年度中に企画して、コロナ対策の推移を見守りながら次年度に開催する。</p> <p>○オープンキャンパスの魅力向上</p> <p>・今年度は実習体験が行えなかったため、十分なコロナ対策などの環境が整った段階で開催できるよう準備する。</p>	<p>・入学生の確保対策は、県次期農業振興計画が目指す「就農環境日本一」に繋がる重要な取組であり、より一層力を入れて取り組んでいただきたい。</p> <p>・学生に対して、専門知識や先進技術の習得等、農大で学ぶことの意義をさらにPRして入学生の確保につなげていただきたい。</p>
		<p>(2)高校、JA等への農大PRの推進</p> <p>○県内高校生を対象とした農大PR</p> <p>・オープンキャンパスや学校見学会等で、出身高校の先輩から直接話を聞く機会を設け、コミュニケーションの定着を図る。</p> <p>・下野新聞社主催の「専門学校進路相談会」に参加し、農大の存在を認識させる。(農業大学校を知らない高校生が非常に多い)</p> <p>○県内農業系以外の高校への戦略的アプローチ</p> <p>・ホームページやSNS等による情報発信を積極的に行い、オープンキャンパスほか学校行事に農業高校以外の学生を多数呼び込み、実習体験等を通して農業の面白さや課題等を実感(考え)させる。</p> <p>○県外高校対策強化</p> <p>・県外の入学実績のある高校に対して、個別訪問や学校説明会への参加等により、入試ほか農大の情報発信を積極的に行い、進路指導に反映させてもらう。</p> <p>○JAへの訪問</p> <p>・いちご学科の説明と募集等の協力依頼のため、県内各JA及び振興事務所を巡回し、広くPRを図る。</p>	<p>○県内高校生を対象とした農大PR</p> <p>・前年度から参加した下野新聞社主催の専門学校進路相談会が中止となったため、マスメディアを活用した学校PRを検討する。</p> <p>○県内農業系以外の高校への戦略的アプローチ</p> <p>・オープンキャンパスの日程等をこれまでより早くHPに掲載し、PRを図った。</p> <p>○県外高校対策強化</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策の影響で、予定していた県外高校への個別訪問が実施できなかった。</p> <p>○JAへの訪問</p> <p>・5月～6月、県内各JA及び農業振興事務所を訪問し、いちご学科の周知と教育研修への協力依頼を行った。</p>	<p>※評価基準</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 70%以上 90%未満</p> <p>C: 50%以上 70%未満</p> <p>D: 50%未満</p>	<p>○県内高校生を対象とした農大PR</p> <p>・マスメディアを活用した学校PRは効果が見込めるため、引き続き下野新聞社主催の専門学校進路相談会やその他の手法に取り組む。</p> <p>○県内農業系以外の高校への戦略的アプローチ</p> <p>・HPを中心に広報媒体を活用する。</p> <p>○県外高校対策強化</p> <p>・推薦入試も含め、個別訪問を行うなど県外高校生への入学案内を早い時期から対応する。</p> <p>○JAへの訪問</p> <p>・円滑な就農に向けた支援体制の確立が課題となるため、在学中から就農・定着まで、各地域と連携した支援体制を確立する。</p>	<p>・進路を限定するほど学生は集まらない傾向にあるため、学生募集の際にはできるだけ幅広い進路(四年制大学への編入学等)を想定したPRを行って入学生の確保に努め、入学後にきちんとした進路指導をしていくことが大切。</p> <p>・高校、大学一貫教育の導入。</p> <p>・普通科高校等を訪問する際、あらかじめ農業系大学・学部を志望する学生に集まってもらい、個別に本県農業と農大の特徴をPRし、理解を深め、入学意欲を喚起することも大切。</p> <p>・農業系以外の高校からの入学生の割合が増えていることから、これらへのPR方法を今後積極的に検討していく必要がある。</p> <p>・県外からの学生が増え、農大のレベルが上がり活性化されれば、農大がより高く評価され、県内からの入学者も増える。</p> <p>・各市町の農政担当課等に対してもPR協力依頼をしてはどうか。</p>	

令和2(2020)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
			取組項目(○)と内容(・)					
			(3)農大の魅力発信の工夫					
			<p>○HPの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の目を引きつけるような奇抜(斬新)なアイデアで、目を引きつけるような内容にHPを更新する。 ・県内外から応募者を確保するため、いちご学科のページを作成し、広くPRを図る。 <p>○各種広報誌等でのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季刊誌への学生PRを継続するとともに外部広報誌等の新規開拓を図る。 ・学生募集告知について依頼を行う。 <p>○マスメディアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界新聞や新聞地方版等に、イベントや学生募集等の掲載を積極的に依頼する。 	<p>○HPの充実</p> <p>授業や実習作業状況についての情報提供を頻繁に実施する取り組みを始めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月～独自のホームページを作成し、内外への周知を図った。 <p>○各種広報誌等でのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校PR資料作成において、編集のアドバイス等を外部企業に依頼することで新たな広報紙作成の準備を行った。 ・広報課の銀行、JA、スーパー等へのポスター・チラシ配布事業を活用し、県内広範囲において広報活動を行った。 <p>○マスメディアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちご学科応募対象者に向け、ホームページ、サイネージ広告、SNS:いちご王国instagram、広報課ツイッター、県メルマガ等で随時情報提供した。(再掲) 		<p>○HPの充実</p> <p>○各種広報誌等でのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい編集による学校広報紙の作成。 ・農大だより(中学～高校配布)の紙面の刷新。 <p>○マスメディアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット(年齢、地域)を絞った効果的な認知度向上に向け、マスメディア媒体を効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTubeを活用した学校紹介動画配信等、今後も積極的な活用を図りたい。 	
			(4)入試方法の改善					
			<p>○出願期間等の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期出願者をより多く確保するため、今年度も願書受付期間を3週間で実施する。(1/18～2/8) 	<p>○出願期間等の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度に限り、コロナ対策の関係から推薦入試が受験できなかった学生は、一般入試前期試験を受験できることとした。 		<p>○出願期間等の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業系大学のスケジュールを参考に、本校を選びやすいように適宜見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ早い時期に推薦入試を行う等、早い段階からの新入生確保も有効。 	